(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26 年 12 月 9 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470104369		
法人名	社会福祉法人 広島光明学園		
事業所名	グループホーム光明牛田		
所在地	広島市東区牛田新町3-20-15 (電話) 082-211-3040		
自己評価作成日	平成26年9月2日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成26年9月18日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>①保育園が事業所の階下にある為、入居者と、園児の触れ合いの機会を設けている。又、保育園との交流行事に力を入れている。 ②隣接するグループホームとの交流行事に力を入れている。 ③外部の行事に参加し、地域との関わりを積極的に行っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホーム光明牛田（以下、ホーム）は、社会福祉法人広島光明学園を母体法人とするホームです。敷地内に系列事業所と保育園があり、行事などを合同で行うことも多く、園児たちとの合同誕生日会や月見など交流を楽しまれています。 また、地域の一員として町内活動に参加し、地域資源の活用や法人のノウハウを活かした施設機能の還元など地域に溶け込み、お互いが支え合う関係を築かれています。 ケア面では、職員全体で統一したケアが行えるよう、入居者の介護計画を差し込んだ「介護内容チェック表」を独自に作成し、日々モニタリングを行いながら個々の支援に繋ぐよう工夫されています。 職員は、自分たちが入りたいホームづくりをめざし、それぞれの特技や得意なことをケアにも活かせるよう努力されています。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営(1ユニット)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人全体の理念三宝一如とホームの理念そのものが地域密着をめざしているので行事等を通じて実践につなげている。	法人理念を基本に、ホームの理念を開設時に作成されています。理念を玄関、フロアに掲示し、共有できるよう取り組まれています。ホーム長やケアマネジャーは、ことあるごとに理念を会話に組み込みながら意識統一を図っておられます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の行事に参加させていただいたり、回覧板等で地域のことを知らせてくださったり、何かあったときは声をかけていただいている。	ホームでは、地域に住む妊婦や障がい者、高齢者を対象に地域を巡回する「無料光明福祉バス」を運行し、地域貢献に努めておられます。町内会に加入し、地域の運動会や盆踊りなどさまざまな行事に参加されています。また、保育園と合同で開催する「地域ふれあいの集い」には、多くの住民の参加があります。法人の「宣伝カー」で地域に向けて広報するなど、さまざまな人との交流が図れるよう工夫されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域行事、法人行事に参加することで地域の人々との交流を通して、認知症のご利用者様と触れ合ってもらって、認知症の理解や支援の方法を決めて、交流を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	町内会長、ご家族、民生委員、地域包括、他事業所の職員の意見、助言を取り入れサービスの向上に努めている。	会議は、年6回、併設のグループホームと合同で開催されています。会議には、区行政担当課職員、地域包括支援センター職員、民生委員・児童委員、併設の保育園の職員、家族、利用者の参加があります。時には、警察官の参加もあります。この度、地域の他事業所と合同で会議を開催されています。会議では地域に住む高齢者の安否確認について検討する場として活用されています。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	特に防災関係において避難訓練等で消防署との連携と指導を受け、利用者様の安全確保に努めている。	運営推進会議に区行政の参加があり、日常的に協力関係を築いておられます。地域包括支援センターの依頼を受け、認知症アドバイザー講師として協力されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関には施錠はしているが自動ドアに工夫を施し、モニターによる見守りができるよう、工夫をしている。施設内、外研修を実施し研修で得た情報を職員全体で共有している。</p>	<p>研修の実施やマニュアルを整備し、身体拘束をしないケアについて職員全体で理解を深めておられます。職員は、「ちょっと待つて」など行動を制限しないよう心がけ、声の大きさやトーンに配慮されています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>施設内研修や担当者会議、マニュアルを整備し職員が共有するようにし、利用者様の、人生観を尊重するように努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>職場の研修や地域での講習会に参加している。実際にご家族の方が成年後見制度の手続きをされた時に協力させていただいた経験もあり、支援している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に重要事項の説明をさせていただき、理解と納得を図っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご家族が来園された際は声かけをさせていただき利用者様に対しての気づきや要望などをお聞きしてプランや運営に反映させている。</p>	<p>年1回、家族会を開き、家族との交流を通して意見が言いやすい環境を整えておられます。毎月の請求書と一緒に、入居者の生活状況を報告し、家族にホームでの暮らしぶりを知ってもらうよう努力されています。また、意見箱を設置し、面会票と併せて満足度アンケートが記載できるよう工夫するなど、意見や要望が出しやすい環境を整えておられます。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	担当者会議、アンケート、ケアプラン、利用者様の状況表、介護内容チェック表等を作成し反映させている。状況に応じて内容の変更等を実施している。	職員全員が意見や提案を出しやすくするため、個別アンケートを実施されています。施設内で設置する委員会に職員が属し、各分野で意見や提案しやすい環境を整えておられます。また、階層別に「職員自己評価票」を実施し、ホーム長と職員が個別面談が行われています。人との関わりや食事が困難な入居者に対して、個別に観察を繰り返し、その人にあった支援について職員から提案が出され反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	希望休をシフトに反映させ、業務に対してストレスを溜めないようかつ、業務に対して向上心を持っていけるように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個別面接を実施し職員個々の得て不得手を把握し、指導、アドバイスを実施するよう努めている。病院等の研修においても参加し介護技術の向上を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	施設外研修に参加させていただき、他事業所の生の意見交換を参考にしている。また、研修施行等で、他の部署との連携を図り、サービスの向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	基本情報を理解し、アセスメント、担当者会議を通して関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の立場を理解し、悲しみ、苦しみ、悩みを共有するように努め、安心して頂けるよう関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者様にもし何かあった場合を想定して医療機関や当法人との連携を密にするよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様の状態が厳しくなっている状況の中介助に苦慮する面もあるが介護内容チェック表を作成し、ご利用者様ができることを見つけご本人の喜びにつなげている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	施設を自宅としてとらえ、ご家族が出入りを遠慮されないよう努めている。居室等で、一緒にお茶を飲んでいただいたり、ご家族の方にも楽しんでいただけるよう努め共に支えていける関係作りを図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	法人行事、施設行事を通じて利用者様のご家族、友人知人、地域の方々にも来園していただけるように努めている。	入居者のこれまでの生活歴を日常会話や家族からの情報を得て把握されています。家族の協力を得て、馴染みの美容院や墓参りに出かける入居者もおられます。家族や友人の訪問があります。また、遠方に住む家族に手紙を書いたり、電話ができるようにしたりして支援されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ホールのテーブルで他のご利用者様とで関わっていただき、隣近所のような関係を大切に、皆で支えあっていけるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	行事などを通じて、常に関わりを大切に、相談や支援を心がけている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	何かあれば、担当者会議、施設内会議を実施し検討している。3ヶ月ごとの利用者状況表の変更の有無も検討し、実施している。	入居者ごとに職員の担当を決め、本人の思いや希望を日常会話などから汲み取っておられます。また、意思表示が困難な入居者には、表情や様子を見ながら把握されています。職員は、プチミーティングや申し送りノートで得た情報の共有に努めておられます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者様との会話やご家族からの情報を職員で共有するとともに、生活環境、生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々のモニタリング、毎月の現状報告書の作成をすることによって利用者様の抱える問題などを分析し現状の把握に努めている。		
		○チームでつくる介護計画とモニタリング		入居者ごとの介護計画を基に、「介護内容	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	困難な場合においても出来ることからはじめていき、利用者様に応じた対応をつくりだしていき、プランに反映させている。職員のユニット化により話し合いの時間を多く持てるよう努め、現状に即したプランを作成している。	チェック表」を作成し、日々モニタリングを実施されています。チェック表を基に、計画作成担当者が総合評価を毎月実施し、現状に即した計画の作成に取り組まれています。計画には、入居者一人ひとりの特技ややりたいことを盛り込み、毎日の実施状況をどの職員が見ても一目で分かるよう工夫されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録の他、担当者会議、施設内会議、ひやりはつとの情報を元に、現状のサービス内容の見直しを実施している。できることを介護内容チェック表にし、介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族との連携や会話を大切にし、時には、ご家族様と外出して頂き、一緒に支えあっていけるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	隣接する保育園の園児さんとの触れ合いや行事に参加することにより、生活のメリハリを持っていただきマンネリな生活にならないように努め、日々の暮らしを楽しんで頂けるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者様が入居されるまで行かれていた病院と地域の主治医の月1回の往診、電話連絡等により、充実した医療の支援に努めている。	毎日、入居者のバイタル状況等を協力医療機関へ情報提供し、月1回の往診と併せて医師と連携を図りながら健康管理に努めておられます。また、週1回、歯科医による往診や、ホームで「口腔セミナー」を実施する際に講師依頼するなど、日常的に協力関係が築かれています。	
		○看護職員との協働			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師による健康チェックの他、身体状況についての助言や、時には、看護師のから医師への連絡等の対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の主治医と医療連携室の相談員との連携をご家族と協議し、万が一に備えて関係作りを行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医療分野以外は、当施設において出来る限りの支援を検討し、医療行為が必要になった場合には入院先または他の選択をご家族、法人の他事業所、地域包括等とともに取り組んでいる。	これまで看取り、ターミナルケアの経験はありません。入居契約時や家族会でホームの方針を説明されています。兆候が見られた場合は、再度、ホームができる支援について家族と話し合いをされています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	夜間帯の急変を想定し、当施設だけでなく隣接する施設職員との連携を取れるよう訓練し実践力を身につけるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	月1回の避難訓練を実施し、隣接する保育園と共に常日頃から危機管理を心かけている。夜間の避難訓練も年3回実施している。	消防署立ち合いのもと、併設のグループホームと保育園と合同で訓練を実施されています。時には、警備会社が立ち合い、警報ベルや器具の確認も行われています。今年度は、土砂災害を想定した訓練を実施される予定です。地元消防団からは、「何かあれば協力する」との言葉をもらい、連携を持つきっかけと考えておられます。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉遣い、声掛けのしかたはもとより、その際の表情も大切に対応している。	個別記録やファイルは鍵付きの棚に保管し、プライバシーの確保に努めておられます。職員同士が入居者の情報を共有する際は、小声で話したり目線に気をつけたりしながら対応されています。不適切な言葉がけなどが見られた場合は注意し、人格を尊重した対応を徹底されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人からの訴えがあれば否定せずできるように対応、またはご家族からの間接的要望を聞いたりし、自己決定出来る様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様のペースを考慮し、行事等事業所側のペースにならないように注意し、希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日常は利用者様の好みに合わせるように心掛けている。行事で外出する場合は身だしなみ、整容の支援をしている。ご家族との外出においてはご家族様好みの対応をしている。ご家族様が外出の服等を持参されることもある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備、片付けにおいては出来る範囲で手伝いをして頂いている。	朝食と日曜日は職員の手作りです。昼食、夕食は建物にある厨房で調理されたものをホームで盛りつけし、状態に合わせてきざみやミキサー食にして提供されています。また、ホームで育てたトマトやいちご、きゅうりなどが食卓に並ぶこともあります。団子を園児と一緒に作り、建物の屋上で月見をしながらぜんざいを食べたり、職員が手作りした弁当を持って、園児との合同遠足に出かけたり、食べるのが楽しみの一つとなるよう工夫されています。	
		○栄養摂取や水分確保の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	給食室から提供されることによりカロリー、バランスについては管理されている。水分量についてはひとりひとり、職員が把握し少ない方には表を作成する等、摂取して頂くように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	訪問歯科、看護師と連携し口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	オムツにたよらないように必要な方には、時間を決めてトイレ誘導を行なう等、支援をしている。	トイレは3か所あり、車椅子対応が可能なスペースが確保されています。また、浴室にもトイレが設置されています。排泄チェック表で一人ひとりのパターンを把握し、声かけによる誘導が行われています。夜間のみポータブルトイレを使用する入居者もおられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	自然なお通じができるよう、毎日乳製品の摂取や、運動をして頂くよう取り組んでいる。テレビ体操の実施や個別対応による運動を行う等、予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	時間的な希望等を考慮し極力、利用者様のペースに合わせている。護師の助言が必要な方は看指示・助言に応じて入浴を行っている。	入浴は、週2～3回を基本に支援されていますが、希望があれば毎日でも入浴が可能です。大きな窓が設置された浴室は、外の景色を眺めながら入浴が楽しめます。脱衣所と浴室にエアコン、扇風機が設置され、温度差がないよう配慮されています。職員は、入居者の背中を流す際にマッサージを行い血行促進に繋げるなど、リラックスしながら入浴を楽しめるよう工夫されています。	
		○安眠や休息の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者様のペースで就寝していただいている。昼夜逆転にならないよう、日中は無理の無いよう運動やレクリエーションを実施し、夜間安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬マニュアルに従い確認を徹底し、看護師と連携をとりつつ服薬事故の無いよう努め、利用者様の变化にも注意するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	レクリエーションを実施することで集団での楽しみが個人の楽しみにつながっている。また、個別対応で気分転換等の支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	グループホームでイベント企画を立て外出できるように努めている。また隣接する保育園の園児さんとの交流も増え外出する機会が増えている。外出の際にはご家族様の協力も得ている。	「ほおづき祭り」や「牛田花田植え」などの地域行事に出かけておられます。園児と一緒に遠足に出かけるなど、子どもたちとの交流を楽しみながら外出されています。近くのコンビニエンスストアへコーヒーを買いに出かけるなど、日常的に気分転換が図れるよう支援されています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭に関してはご家族が管理されている。		
		○電話や手紙の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者様自身の要望があった際は事業所の電話を利用していたりして支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者様と職員とで季節を感じていただける物を作成し廊下、入口等に展示を実施している。所々に花を飾ったり、快適に過ごして頂けるように工夫している。	建物の3階部分にホームがあり、共有空間は大きな掃き出し窓があり、自然光が入り明るい空間となっています。広々としたベランダでプランターに季節ごとの野菜を植えて育てたり、日光浴したりするなど、気分転換ができるよう工夫されています。廊下など所々に、笑顔いっぱいの入居者の写真を掲示されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファ、テーブルの配置を考慮しながらくつろげる空間作り等の工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族様の協力を得て、使い慣れたものや、プレゼント、花などを置き安全に考慮しながら居心地の良い居室作りをしている。	居室には、ベッド、エアコン、カーテンが完備されています。入居者は、テレビや写真、馴染みのある小物などを持ち込み、個性に応じて居心地よく過ごせるよう工夫されています。また、寝返りなどで柵にぶつかった場合でも痛くないようにベッド柵にクッション素材を巻くなど、職員による工夫が所々で伺えました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全確保に努め、必要に応じ、行動の制限をしないよう、安心した生活が送れるように工夫している。		

V アウトカム項目(1ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム光明牛田

作成日 平成 26 年 12 月 27 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	60	行事での外出は支援できているが, 日常生活における買い物や散歩等の支援が行えていない。	個別に要望を確認し, 外出の支援に努める。	・ケアプランに個々へ要望(外出面)を位置づけ支援する。 ・要望があった際には, できる限り応える。	6か月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム光明牛田

作成日 平成 26 年 12 月 27 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	60	行事での外出は支援できているが, 日常生活における買い物や散歩等の支援が行えていない。	個別に要望を確認し, 外出の支援に努める。	・ケアプランに個々へ要望(外出面)を一つづつ支援する。 ・要望があった際には, 出来る限り応える。	6か月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。